

筑波大学大学院 人文社会科学 研究科 哲学・思想専攻 主催  
第二回 フランス語によるフランス哲学セミナー

# ライプニッツの〈省察〉について

講師 ポール・ラトール（フランス共和国・パリ第一大学準教授）

司会・通訳 津崎良典（筑波大学人文社会系准教授）

日時 二〇一五年十一月三日（火） 十六時から十八時半まで

場所 筑波大学 東京キャンパス 四三一ゼミ室（四階）

助成

学習院大学 平成二七年度客員研究員  
日本学術振興会 科学研究費補助金（研究課題番号15H03150）

ラトール氏はライプニッツを初めとする西洋近世哲学史研究の新進気鋭。ストラ  
スブール大学提出博士論文「ライプニッツにおける悪の問題」（二〇〇五  
年）は、『*La question du mal chez Leibniz*』という同名の標題のもと二〇〇八年に  
老舗 *Honore Champion* 社より刊行。学習院大学の招聘により今年初来日  
（招聘責任者・酒井潔）。本年度始動の科研費基盤B研究課題「中世後期から  
近世初期までの〈メデイタチオ〉に関する国際協働による哲学史的総合研  
究」（研究代表者・谷川多佳子）の一環として、ライプニッツの小論攷「認識  
真理、観念に関する省察」（一六八四年）について縦横無尽にご解説頂く。

セミナーはフランス語で行われるが、必要に応じて逐次通訳がつく予定。事前  
予約不要かつ無料にて来聴歓迎。お問い合わせは、津崎良典  
([tsuzaki.yoshinori.gn@u.tsukuba.ac.jp](mailto:tsuzaki.yoshinori.gn@u.tsukuba.ac.jp)) まで電子メールにて。

